

周秀矩 （註） 國學者。文政五年一月十八日美濃國中津川宿生れ、明  
 治九年一月二十三日歿（八三—六）。舊姓羽周、幼名茂七、寛二、通  
 稱半兵衛。號半米、里融。初の後藤東洋の漢學を、岩崎長世の國學を  
 學ぶ。安政四年改姓、六年平田篤胤の歿後門人となる（まは、島崎藤村  
 の父島崎正樹が同じく歿後門人となりたのは秀矩の紹介の據るとのこ  
 ろ）。文久年間上洛して平田篤胤の訃事し、勤王の志士と交はつて  
 國學の益を得。明治元年隠居臺より内監察を命ぜられ東上、翌年再度上  
 京の折「東行日記」を録す。二年神祇權少中を任じた。

『周半兵衛秀矩集』（昭和五十一年初夏周孔太郎跋、無刊記）の他、  
 水垣清著『周半兵衛秀矩とその業績—東美濃の平田門人』（昭和五十  
 四年十一月十日岐阜・私家版）がある。

